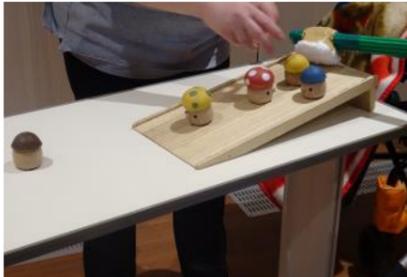


お楽しみ会「おもちゃと遊ぼう会」

生活療育支援科 石田 泰美

3月7日、府中市にあるNPO法人「ブックントイ」さんをお招きして、「おもちゃと遊ぼう会」を開催しました。ブックントイさんは、おもちゃコンサルタントの方が選んだ楽しいおもちゃがたくさんある子育てひろばで、クリニックとも連携しています。センター移転前に1度来ていただいていた、翌年以降はコロナ禍のため休止していました。今年を対象を入所部門のみとし参加人数に制限を設けた上で、久しぶりに来ていただくことができました。

当日、会場の多目的ホールと活動室5には、「音を楽しむ」「目で楽しむ」「まわす」「たたく」「にぎる・ひっぱる」等をテーマにした様々なおもちゃが並びました。きらきらした宝石の埋まっている大きなこまにうっとりする人、おさかなシロフォンの澄んだ音色をリラックスした表情で聴いている人、坂道を転がるどんぐりの



おもちゃの競争に盛り上がる人達、と利用者の皆さんはそれぞれ気に入ったおもちゃと向き合い、五感でおもちゃとの対話を楽しみ、賑やかで豊かなひと時を過ごしました。

今回は、ブックントイの皆さんとはおもちゃのアドバイスをいただきながらもディスタンスを取った関わりでしたが、次回はもっと近くで交流できることを願っています。ブックントイの皆さん、ありがとうございました。

スプリングコンサートを楽しみました♪



3月30日(木)、多目的ホールにて「スプリングコンサート」を開催しました。演奏してくださったのは、医学部の学生の管弦楽団の弦楽奏者(6名)です。平成24年より代々引き継いで毎年来てくださっていたのですが、新型コロナ流行のため、今回4年ぶりのコンサートとなりました。「となりのトトロ」「世界に一つだけの花」「Believe」等、親しみのある曲をた

くさん、こちらから事前にリクエストした曲も取り入れて演奏してくださいました。「四季より『春』第1楽章」では、さすが管弦楽団という感じの迫力いっぱいの演奏を聴くことができました。今回は感染対策のため、残念ながら入所部門の方のみを対象とし、1病棟あたりの参加人数を制限しましたが、バイオリン、ビオラ、チェロの生の音色にリラックスした表情を浮かべる人、明るい音楽に身体を揺らしてはしゃぐ人等、利用者の方は日常から離れ、美しく楽しいひと時を過ごすことができました。

今後もこのつながりを大切に、次回はもっとたくさんの方の利用者の方が楽しめるようになると良いなと思っています。管弦楽団の皆さん、ありがとうございました。

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第544号 発行日 令和5年4月30日

着任挨拶

○ 看護担当科長 古田 環 (ふるた たまき)

小児総合医療センターから異動してまいりました古田です。5年前に府中療育センターで3年間お世話になり、駒込病院で4年間、小児総合医療センターで1年間勤務し戻ってきました。職員の方から「おかえりなさい」などの声があり、とても嬉しく感じています。

令和2年6月に新センターが開設され、センター内はとても明るく開放感のある作りになっていて、働きやすい環境だと思います。このような環境の中で、「利用者さんの生活をより豊かなものに」というセンター理念のもと、職員の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。そして職員がやりがいをもって働けるよう、力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



○ 地域療育支援担当科長 星 千賢 (ほし ちかし)

4月1日付の人事異動で地域療育支援担当科長に着任しました星です。府中療育センターに勤務して4年目になります。前職は医療福祉相談室の課長代理として、短期入所、長期入所の入所調整や入所利用者のサービス管理責任者、苦情相談窓口等を担当していました。

今後も、利用者に寄り添う療育を大事にして、質の高い療育と医療サービスを提供していくため地域療育支援科で職員一丸となって力を合わせて取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



着任挨拶

○小児科医長 齋藤 菜穂 (さいとう なほ)

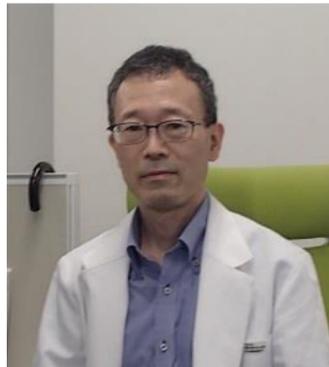
この度、小児科医長となりました齋藤菜穂です。2007年秋にセンターに参りましてから早15年、痙縮治療チーム、緩和ケアチーム、そして意思決定支援チームと新たなチームの立ち上げにも関わってまいりました。これらが何とか継続し、徐々に形になってきているのは、ひとえにチームメンバーをはじめ各職種皆様のご協力の賜物と感謝しております。この3つの活動に共通する思いは、利用者に楽に(苦痛なく)、本人らしくその人生を楽しみ、全うしていただきたい、ということです。そのためには利用者、家族、そしてケアをするスタッフが、共に悩み、総合的に考えてその方の最善をめざすことが必要で、そのお手伝いを各チームの特徴を生かして少しでもできればと考えています。まだまだつたないところも多いですが、今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



退任挨拶

○前小児科医長 渥美 聡 (あつみ そう)

2年間勤務し、3月で退職することになりました。私は2004年に摂食嚥下チームを立ち上げました。多くの職種が集まりチームアプローチを行うことは、当センターでは初めてでした。摂食に関する問題を解決していくには、あらゆる知識を総動員する必要があります。誤嚥などに対する医学的知識、摂食時の姿勢調整、スプーンの持ち方、栄養や食形態のこと、介助方法など様々です。自分もそれらの知識をつけて利用者の食事する姿を見ながら、何が大切かを見極めるよう努めました。ケースによっては難しいこともあります。本人が生きようとする力を感じ取り、本人が幸せになるにはどうしたらよいかを第一に考えるようにしていきました。



退職後も当センターの摂食外来に月3回来ることになりました。外来ではまた、よろしくをお願いいたします。

○前小児科医長 大越 優美 (おおこし ゆみ)



この度、3月31日をもって退任させていただくことになりました。職務中全ての職員の皆様に支えられ助けていただき職務を全うすることができました。心より深謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後も職員の皆様の御健康と療育センターのますますの発展を祈念しております。

なお、4月からは非常勤医師として、センターで病棟を担当しております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

退任挨拶

○前看護担当科長 小関 次子 (こせき つぎこ)

府中療育センターに着任してからの激動の4年間を振り返ります。2019年4月 初めて訪れたセンターの建物の古さに驚きを覚えました。そして新施設を建設中であり、次年度には引っ越し予定とか…元号は平成から令和へ。2020年3月 新型コロナウイルス感染症の影響により、突然新任研修等をオンラインで実施するとのこと…こりゃ大変だーとなりました。同年4月 感染症の影響を受け、日常生活は一変しました。その中でも新施設への移転準備は着々と進められ、5月末には順調に引っ越しが完了しました。感染症患者を受け入れるホテル夜勤も経験し、得体の知れないものと戦う不安を体感しました。



OLYMPICS 2021年 記念すべき東京オリンピックが7月開催。様々な場面に胸が熱くなりました。しかし感染症は猛威を振るい、宴会も外食も遠いものとなっていきました。

2022年 少しずつ日常が戻りつつある気配の中、感染者数の増減に一喜一憂する日々は続きました。

同年12月 FIFAワールドカップの激闘ぶりに早朝から励まされました。そして2023年3月 WBC(ワールドベースボールクラシック)で日本が世界一達成！終わり良ければすべて良し！の境地になりました。

このように新型コロナウイルス感染症に翻弄されながらも、細やかな楽しみをみつけたり、テレビで観るスポーツ選手に勇気と元気を与えてもらったりしながら過ごした4年間でした。

在職中、私に看護の奥深さを教えてくださった利用者さん、センター内で勤務されている職員のみなさま、大変お世話になりました。心から御礼を申し上げます。

○前地域療育支援科調整担当課長 大東 寛宜 (おおひがし ひろのぶ)

このたび、4月1日付けで東京都監察医務院に異動になりました大東です。地域療育支援科調整担当課長としての在職中、本当にお世話になりました。

新型コロナウイルス感染症の真ただ中の状態で、在籍していた2年の間、コロナ対応の兼務のため不在にすることも多かったのですが、その分、府中療育センターに勤務できる時を大切にしたいと思って仕事をしてきました。

地域療育支援科の医療福祉相談室、通所、通園とそれぞれの部門での業務に携わる中で、たくさんの方を教わりました。利用者の皆さんのことを考え、一緒に仕事ができ本当に良かったです。

院長先生はじめセンターの皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。2年間、ありがとうございました。

